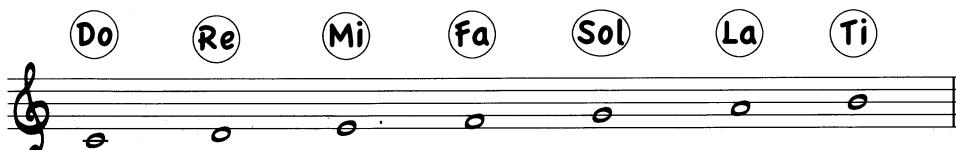


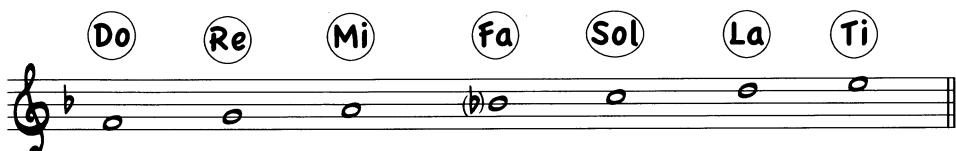
3. 12音ソルフェージュ

ソルフェージュには、国によっていくつかバリエーションがあるが、ここではアメリカなど英語圏で使われている代表的なものを扱う。

C メジャー・スケール上に表れる 7 つの音のソルフェージュ。



移動ドでは主音（トニック）が常に Do になる。F メジャー・スケールの例。



12音ソルフェージュはいたって簡単。

が付く場合は母音を「i」に変える。

♭ が付く場合は母音を「e」に変える。（レ ♭ のみ例外）

A handwritten musical staff in G clef. It has twelve vertical stems with open circles at their tops, each containing one of the twelve solfège names: Do, Di, Re, Ri, Mi, Fa, Fi, Sol, Si, La, Li, and Ti. The staff consists of five horizontal lines and four spaces. Below this, another musical staff in G clef shows a sequence of notes: Do, Ti, Te, La, Le, Sol, Se, Fa, Mi, Me, Re, and Ra. An arrow points from the word '例外' (Exception) to the note 'Re' in the second staff, indicating that 'Re' is an exception to the general rule of changing the vowel sound based on the sharp or flat sign.

12音ソルフェージュはカタカナで Re と Le, Ri と Li、La と Ra が区別できないため、カタカナ表記しない。

日本でこのシステムがほとんど使われていないのは、カナ表記できることと、日本人がRとLを聞き分けられないためと思われる。実際には、人に聴かせるものではないので、自分の中で区別ができるれば問題はない。または、RとLの区別をマスターする絶好のチャンスと考えて訓練するのもいい。

※ Mi#, Fa♭, Ti#, Do♭, ダブル#, ダブル♭などの場合のソルフェージュもいくつかあるが、ここでは使わない。